

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

ATTORNEY DOCKET NO. 086142-0567

Applicant: Tadashi TANAKA et al.
Title: GUIDE MEMBER FOR CURTAIN AIRBAG
Appl. No.: Unassigned
Filing Date: 07/17/2003
Examiner: Unassigned
Art Unit: Unassigned

CLAIM FOR CONVENTION PRIORITY

Commissioner for Patents
PO Box 1450
Alexandria, Virginia 22313-1450

Sir:

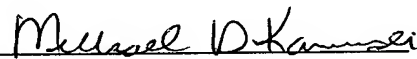
The benefit of the filing date of the following prior foreign application filed in the following foreign country is hereby requested, and the right of priority provided in 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed.

In support of this claim, filed herewith is a certified copy of said original foreign application:

Japanese Patent Application No. 2002-212693 filed July 22, 2002.

Respectfully submitted,

July 17, 2003
Date


Michael D. Kaminski
Attorney for Applicant
Registration No. 32,904

FOLEY & LARDNER
Customer Number: 22428



22428

PATENT TRADEMARK OFFICE

Telephone: (202) 672-5490
Facsimile: (202) 672-5399

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 7月22日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-212693

[ST.10/C]:

[JP2002-212693]

出 願 人

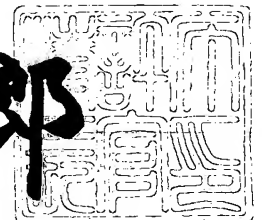
Applicant(s):

タカタ株式会社

2003年 4月 4日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3023936

【書類名】 特許願

【整理番号】 P-10629

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

 【氏名】 田中 匡

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

 【氏名】 熊谷 雅義

【特許出願人】

 【識別番号】 000108591

 【氏名又は名称】 タカタ株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100086911

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 重野 剛

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 004787

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 カーテンエアバッグのガイド部材

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車両室内の側面に沿って下方に向って展開するカーテンエアバッグの前後方向の端部を案内するためのガイド部材であって、

上下方向に延在し、車両のピラーに取り付けられるカーテンエアバッグのガイド部材において、

該ガイド部材の上部及び下部に、それぞれ、該ガイド部材をピラーに仮留めする仮留め部が設けられていることを特徴とするカーテンエアバッグのガイド部材

。 【請求項 2】 請求項 1 において、該仮留め部は、該ガイド部材の長手方向と交叉方向に延出していることを特徴とするカーテンエアバッグのガイド部材。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 において、該ガイド部材に沿って下降してきたカーテンエアバッグの前記端部が上方に戻ることを阻止するように該ガイド部材の下部が屈曲又は湾曲されてカーテンエアバッグ端部の係留部が設けられていることを特徴とするカーテンエアバッグのガイド部材。

【請求項 4】 車両室内の側面に沿って下方に向って展開するカーテンエアバッグの前後方向の端部を案内するためのガイド部材であって、

上下方向に延在し、車両のピラーに取り付けられるカーテンエアバッグのガイド部材において、

該ガイド部材に沿って下降してきたカーテンエアバッグの前記端部が上方に戻ることを阻止するように該ガイド部材の下部が屈曲又は湾曲されてカーテンエアバッグ端部の係留部が設けられていることを特徴とするカーテンエアバッグのガイド部材。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両室内の側面に沿って展開するカーテンエアバッグ（カーテン状エアバッグ）を案内するためのガイド部材に係り、詳しくは、車両のピラーに取

り付けられ、該カーテンエアバッグの前後方向の端部を案内するガイド部材に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

カーテンエアバッグ装置を備えた自動車にあっては、自動車が側面衝突を受けたり、横転した場合などには該カーテンエアバッグが車両室内の側面（例えばドアやピラーなど）に沿って車体下方に向って膨張し、乗員の頭部を保護すると共に、窓が開いているときには乗員が車外に投げ出されることを防止する。

【 0 0 0 3 】

室内側面に沿って膨張するカーテンエアバッグの後端部をピラーに沿って車体下方に導くためのガイド部材をCピラーに設けることが米国特許 6, 2 3 7, 9 3 8 号に記載されている。

【 0 0 0 4 】

同号特許のガイド部材は、トラックと称される箱型断面形状の部材と、該トラック内に配置され、該トラックの長手方向に移動可能なエレメントと称されるスライダ部材とを備えており、カーテンエアバッグの後端が該エレメントに結び付けられている。なお、下方に移動したカーテンエアバッグ後端部が上方に戻ることを防止するために、該トラックのほぼ全長にわたって等間隔に配置されたラッチ部を備えている。

【 0 0 0 5 】

上記トラックの上端及び下端には取付フランジが設けられており、各フランジがボルト又はビスによってCピラーに取り付けられている。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

上記のようにガイド部材をピラーに対しボルト又はビスによって取り付けるに際しては、作業員が一方の手でガイド部材を保持し、他方の手で工具を操作してボルト又はビスを回す必要があり、作業効率が悪い。また、このボルト又はビス留め作業中に該一方の手をガイド部材から離すと、ガイド部材がボルト又はビスと共に回りすることもある。

【0007】

本発明は、このような問題点を解決し、車体への取付作業性に著しく優れたカーテンエアバッグのガイド部材を提供することを目的とする。

【0008】

また、本発明は、該ガイド部材に沿って下降してきたカーテンエアバッグの端部を係留することができるガイド部材を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明（請求項1）のカーテンエアバッグのガイド部材は、車両室内の側面に沿って下方に向かって展開するカーテンエアバッグの前後方向の端部を案内するためのガイド部材であって、上下方向に延在し、車両のピラーに取り付けられるカーテンエアバッグのガイド部材において、該ガイド部材の上部及び下部に、それぞれ、該ガイド部材をピラーに仮留めする仮留め部が設けられていることを特徴とするものである。

【0010】

かかるガイド部材は、仮留め部を車体に係合させて仮留めしておくことができるので、車体への取付作業が簡単である。

【0011】

また、この仮留め部がガイド部材の上部及び下部にそれぞれ設けられているので、ガイド部材を車体に対しボルト又はビス留めするときにガイド部材がボルト又はビスと共回りすることがない。

【0012】

この仮留め部は、ガイド部材の長手方向と交叉方向に延出していることが好ましい。この場合、例えば車体に該仮留め部に対応する開口を設けておくことにより、仮留め部を該開口に差し込むだけでガイド部材を仮留めすることができる。

【0013】

本発明では、ガイド部材に沿って下降してきたカーテンエアバッグの前記端部が上方に戻ることを阻止するように該ガイド部材の下部が屈曲又は湾曲されてカーテンエアバッグ端部の係留部が設けられている構成としてもよい。このように

ガイド部材に屈曲又は湾曲した部分よりなる係留部を形成することは、前記米国特許 6, 2 3 7, 9 3 8 号のようにラッチ部を形成することに比べると極めて簡単であり、ガイド部材の製造コストダウンを図ることができる。

【 0 0 1 4 】

本発明（請求項 4）のカーテンエアバッグのガイド部材は、車両室内の側面に沿って下方に向って展開するカーテンエアバッグの前後方向の端部を案内するためのガイド部材であって、上下方向に延在し、車両のピラーに取り付けられるカーテンエアバッグのガイド部材において、該ガイド部材に沿って下降してきたカーテンエアバッグの前記端部が上方に戻ることを阻止するように該ガイド部材の下部が屈曲又は湾曲されてカーテンエアバッグ端部の係留部が設けられていることを特徴とするものである。

【 0 0 1 5 】

このカーテンエアバッグのガイド部材によれば、上記の通り、カーテンエアバッグの端部が上方に戻ることを防止される。このガイド部材は、構成が簡単であり製造コストが低い。

【 0 0 1 6 】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【 0 0 1 7 】

第 1 図は本発明の実施の形態に係るカーテンエアバッグのガイド部材の分解斜視図であり、第 2 図は第 1 図の II-II 線に沿う断面図である。また、第 3 図（a）、（b）は、それぞれ、カーテンエアバッグが折り畳まれた状態にあるとき、及びカーテンエアバッグが膨張を完了したときの斜視図である。

【 0 0 1 8 】

この実施の形態では、カーテンエアバッグ 1 が前後方向に細長く折り畳まれた状態で自動車のルーフサイド部（車室内の天井面と側面との境界部分）2 に沿って配置されている。このカーテンエアバッグ 1 は、自動車が側面衝突を受けたり横転したときなどにインフレーター（図示略）からのガスにより膨らみ出し、ドアや各ピラーなどの車室内の側面に沿って車体下方に向って膨張展開する。この力

カーテンエアバッグ 1 の上縁には耳部 3 が設けられており、この耳部 3 のボルト挿通孔 4 にボルト 5 (第 3 図) が挿通され、該ボルト 5 がルーフサイド部 2 の雌ねじ孔 6 に螺じ込まれることにより、該カーテンエアバッグ 1 がルーフサイド部 2 に留め付けられている。

【 0 0 1 9 】

自動車の C ピラー 7 には、このカーテンエアバッグ 1 が該 C ピラー 7 に沿って車体下方に向って膨張するとき該カーテンエアバッグ 1 の後端部を C ピラー 7 に沿って案内するためのガイド部材 8 が取り付けられている。このガイド部材 8 は、C ピラー 7 に沿って車体上下方向に延在する棒状のガイド部 9 と、該ガイド部 9 の上下両端部をそれぞれ該 C ピラー 7 に固定するための上側固定部 1 0 及び下側固定部 1 1 と、このガイド部材 8 を C ピラー 7 に取り付ける際に該上側及び下側の両固定部 1 0, 1 1 をそれぞれ該 C ピラー 7 に仮留めするための仮留め部 1 2, 1 3 とを有している。

【 0 0 2 0 】

該カーテンエアバッグ 1 は、後端部の下側角縁付近にループ状の連結帯 1 4 が取り付けられており、この連結帯 1 4 が該ガイド部 9 に掛け回されることにより、後端部がガイド部材 8 に連結されている。

【 0 0 2 1 】

該ガイド部 9 は、パイプ状部材よりなる。このガイド部 9 の下部は略クランク状に屈曲され、これにより、カーテンエアバッグ 1 に接近する方向に突き出した L 字形コーナー部に連結帯 1 4 の係留部 9 a が設けられている。この係留部 9 a に連なる略水平状部分 9 b は、連結帯 1 4 が該係留部 9 a よりも下方にまで移動することを阻止するためのストッパとして機能する。

【 0 0 2 2 】

該ガイド部 9 の上下両端側には、第 2 図に示すように、該ガイド部 9 を全体として該 C ピラー 7 の外面から離隔させるための脚状部 1 5, 1 6 が設けられている。これらの脚状部 1 5, 1 6 は、該ガイド部 9 の上下両端側をそれぞれ C ピラー 7 側に略クランク状に屈曲させることにより形成されている。これらの脚状部 1 5, 1 6 の先端に、それぞれ、該上側及び下側固定部 1 0, 1 1 が連なってい

る。

【 0 0 2 3 】

このガイド部材 8 は、該固定部 1 0， 1 1 に設けられたボルト挿通孔 1 7， 1 8（第 1 図）にそれぞれボルト 1 9 を挿通し、各ボルト 1 9 を C ピラー 7 の各雌ねじ孔 2 0 に螺じ込むことにより、該 C ピラー 7 に固定される

各仮留め部 1 2， 1 3 は、第 2 図に示す通り、該上側及び下側固定部 1 0， 1 1 の C ピラー 7 と重なる面から、該 C ピラー 7 に差し込まれうるように、ガイド部 9 の延在方向と交叉方向に延出している。該 C ピラー 7 には、これらの仮留め部 1 2， 1 3 と対応する仮留め部差込用開口 2 3， 2 4 が設けられている。また、該上側仮留め部 1 2 の先端側には、該開口 2 3 の下縁部に掛止される鉤状部 2 5 が設けられている。

【 0 0 2 4 】

なお、この実施の形態では、鉤状部 2 5 は、該上側仮留め部 1 2 の先端側を下方に折曲した形状となっている。

【 0 0 2 5 】

このように構成されたガイド部材 8 にあっては、該ガイド部材 8 を C ピラー 7 に取り付けるに当り、上側及び下側の各仮留め部 1 2， 1 3 を対応する仮留め部差込用開口 2 3， 2 4 に差し込んで係合させることにより、該ガイド部材 8 を C ピラー 7 に仮留めしておくことができる。そのため、ボルト留め等の作業中に該ガイド部材 8 を手などで押えておく必要がなく、取付作業を極めて簡単に行うことができる。

【 0 0 2 6 】

しかも、この実施の形態では、上側仮留め部 1 2 の先端側に設けられた鉤状部 2 5 が開口 2 3 の下縁部に掛止されるため、作業中に工具等が該ガイド部材 8 に当たりしてもガイド部材 8 が C ピラー 7 から落下することがない。

【 0 0 2 7 】

また、これらの仮留め部 1 2， 1 3 がそれぞれガイド部材 8 の上端側及び下端側に設けられているので、固定部 1 0， 1 1 のボルト挿通孔 1 7， 1 8 にボルト 1 9 を挿通して C ピラー 7 の雌ねじ孔 2 0 に螺じ込んだときに、該ガイド部材 8

を手で押えておかなくても、該ガイド部材 8 が該ボルト 1 9 と共回りすることがない。

【 0 0 2 8 】

C ピラー 7 に取り付けられたガイド部材 8 は、カーテンエアバッグ 1 が膨張するときに連結帯 1 4 を下方に案内する。この実施の形態では、係留部 9 a よりも上側部分 9 c は、上方ほど車体後方側となるように該ガイド部材 8 が設置されている。そのため、第 3 図の通り、カーテンエアバッグ 1 がこのガイド部材 8 によって案内されて車体下方に向って膨張したときに該カーテンエアバッグ 1 の後端部たる連結帯 1 4 が上方に戻る事が阻止される。

【 0 0 2 9 】

即ち、カーテンエアバッグ 1 は、膨張するとその外面に作用する張力により前後方向長さが小さくなり、該後端部が前方へ引き寄せられるようになる。膨張完了した第 3 図 (b) の段階では、該連結帯 1 4 は、該ガイド部 9 を遡って上方且つ後方に移動することができず、係留部 9 a に止まったままとなる。

【 0 0 3 0 】

上記の実施の形態では、各固定部 1 0, 1 1 の上部又は下部を C ピラー 7 側に折曲することにより板状の各仮留め部 1 2, 1 3 を形成しているが、仮留め部の形状及び形成方法はこれに限られるものではない。例えば、各固定部 1 0, 1 1 の C ピラー 7 と重なる面にピンなどの突起物を溶接等により取り付けることにより仮留め部を形成してもよい。

【 0 0 3 1 】

また、上記の実施の形態では各仮留め部 1 2, 1 3 とガイド部材 8 とを一体に構成しているが、これらを別体に構成してもよい。このように各仮留め部とガイド部材とを別体に構成した例を第 4 図に示す。なお、第 4 図は本発明の別の実施の形態に係るカーテンエアバッグのガイド部材の上部付近の斜視図である。

【 0 0 3 2 】

この第 4 図のガイド部材 8 A においては、ガイド部 9 の上端付近 (脚状部 1 5 との境界付近) に該ガイド部材 8 A とは別体に構成された仮留め部材 3 0 が取り付けられている。この仮留め部材 3 0 は、該ガイド部 9 を把持するように該ガイ

ド部 9 の外周面に沿って弾性的に当接した略 C 字形状のクリップ部 3 1 と、該クリップ部 3 1 の周方向の両端縁部から側外方に延出した 1 対の延出片 3 2、3 2 と、一方の延出片 3 2 の側面から該ガイド部 9 の延在方向と交叉方向に延出した突片状の仮留め部 3 3 とを有している。

【 0 0 3 3 】

図示はしないが、このガイド部 9 の下端付近（脚状部 1 6 との境界付近）にも同様の仮留め部材 3 0 が取り付けられている。また、C ピラーには、これらの仮留め部材 3 0 の各仮留め部 3 3 が係合可能な開口が設けられている。

【 0 0 3 4 】

なお、このガイド部材 8 A のその他の構成は、前記の第 1 ～ 3 図のガイド部材 8 において上側及び下側の各固定部 1 0、1 1 にそれぞれ仮留め部 1 2、1 3 を設けていないこと以外は該ガイド部材 8 と同一の構成となっており、第 4 図において第 1 ～ 3 図と同一符号は同一部分を示している。

【 0 0 3 5 】

このように構成されたガイド部材 8 A を C ピラー（図示略）に取り付けるに当たっては、まず、仮留め部材 3 0 の両延出片 3 2、3 2 同士を離反させるようにクリップ部 3 1 を弾性的に拡張させ、該延出片 3 2、3 2 同士の間からクリップ部 3 1 の内周側にガイド部 9 を嵌め込むようにして該仮留め部材 3 0 をガイド部 9 の上端付近及び下端付近に装着する。

【 0 0 3 6 】

そして、各仮留め部材 3 0 の仮留め部 3 3 を C ピラーの対応する開口（図示略）に係合させることにより該ガイド部材 8 A を C ピラーに仮留めし、この状態で各固定部 1 0、1 1 をボルト留めすることにより、該ガイド部材 8 A を C ピラーに固定する。

【 0 0 3 7 】

従って、このガイド部材 8 A にあっても、前述のガイド部材 8 と同様、ボルト留め等の作業中に該ガイド部材 8 A を手などで押えておく必要がなく、該ガイド部材 8 A の C ピラーへの取り付け作業は極めて簡単である。また、各固定部 1 0、1 1 をボルト留めする際に、該ガイド部材 8 A がボルトと共回りすることもない。

く作業効率が極めて高い。

【 0 0 3 8 】

なお、第 4 図の実施の形態では、仮留め部 3 3 は延出片 3 2 から一直線状に延出した板状突片となっているが、前述のガイド部材 8 の仮留め部 1 2 と同様に、先端側に鉤状部を設けて仮留め時の該仮留め部 3 3 の開口からの抜け出し、即ちガイド部材 8 A の C ピラーからの落下を確実に防止するようにしてもよい。

【 0 0 3 9 】

前述の第 1 ～ 3 図の実施の形態では、ガイド部 9 を、長手方向の途中部分から下端付近にかけて該下端側ほど前方（カーテンエアバッグ 1 側）となるように屈曲させることにより係留部 9 a を構成しているが、係留部の構造はこれに限られるものではない。

【 0 0 4 0 】

以下に、この係留部の他の例を第 5 図及び第 6 図を参照して説明する。なお、第 5 図及び第 6 図は、それぞれ、ガイド部材 8 B、8 B' が取り付けられた C ピラー付近の斜視図である。

【 0 0 4 1 】

第 5 図のガイド部材 8 B も、C ピラー 7 に沿って車体上下方向に延在する棒状のガイド部 9 B と、該ガイド部 9 B の上下両端部をそれぞれ該 C ピラー 7 に固定するための上側及び下側固定部 1 0、1 1 と、このガイド部材 8 B を C ピラー 7 に取り付ける際に該上側及び下側の両固定部 1 0、1 1 をそれぞれ該 C ピラー 7 に仮留めするための仮留め部 1 2、1 3 とを有している。また、該カーテンエアバッグ 1 は、後端部の下側角縁付近に取り付けられたループ状の連結帯 1 4 が該ガイド部 9 B に掛け回されることにより、後端部がこのガイド部材 8 B に連結されている。

【 0 0 4 2 】

このガイド部材 8 B においては、膨張完了時のカーテンエアバッグ 1 の連結帯 1 4 と略同一高さとなる該ガイド部 9 B の下部が前方（カーテンエアバッグ 1 側）にループ状に周回するように曲成されることにより係留部 4 0 が構成されている。

【 0 0 4 3 】

なお、このガイド部材 8 B のその他の構成は、前記の第 1 ～ 3 図のガイド部材 8 と同一となっており、第 5 図において第 1 ～ 3 図と同一符号は同一部分を示している。

【 0 0 4 4 】

このように構成されたガイド部材 8 B にあっては、カーテンエアバッグ 1 が膨らみ出して下方に向って広がるのに伴い、連結帯 1 4 が該ガイド部 9 B に沿って下方へ移動し、該カーテンエアバッグ 1 がほぼ最大となる大きさにまで膨張したときに係留部 4 0 に入り込む。そして、カーテンエアバッグ 1 が膨張を完了すると、その外面に作用する張力によって該カーテンエアバッグ 1 の後端部が前方に引き寄せられることにより、該連結帯 1 4 も前方に引張られてこの係留部 4 0 から抜け出し不能となる。これにより、該カーテンエアバッグ 1 の後端部がガイド部 9 B を遡って上方へ戻ることが防止される。

【 0 0 4 5 】

第 6 図のガイド部材 8 B' は、第 5 図のガイド部材 8 B において係留部 4 1 を直径方向に塑性変形可能な材質にて構成したものである。その他の構成は同一であり、同一符号は同一部分を示している。このガイド部材 8 B' にあっては、カーテンエアバッグ 1 が下方へ広がるのに伴って連結帯 1 4 が係留部 4 1 内に入り込んだ後、該カーテンエアバッグ 1 からの張力が該連結帯 1 4 を介して係留部 4 1 に加えられると、該係留部 4 1 が前方に引き出されるようにして塑性変形する。これにより、該連結帯 1 4 がこの係留部 4 1 によって挟持固定されるようになり、該カーテンエアバッグ 1 の後端部の上方への戻りがより確実に防止されるようになる。

【 0 0 4 6 】

なお、上記の各実施の形態はいずれも本発明の一例であり、本発明はこれらの実施の形態に限定されるものではない。例えば、上記の各実施の形態では、C ピラー 7 にガイド部材 8 を設け、カーテンエアバッグ膨張時にカーテンエアバッグ 1 の後端部を該 C ピラー 7 に沿って車体下方に向って案内するよう構成しているが、本発明にあっては、ガイド部材は B ピラーや D ピラーに設けられてもよい。

また、ガイド部材を A ピラーに設け、カーテンエアバッグの前端部を案内するよう構成してもよい。

【 0 0 4 7 】

【発明の効果】

以上詳述した通り、本発明によると、車体への取付作業性に著しく優れたカーテンエアバッグのガイド部材が提供される。また、本発明によると、膨張したカーテンエアバッグの端部が上方に戻ることを防止するよう構成することもできる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態に係るカーテンエアバッグのガイド部材の分解斜視図である。

【図 2】

図 1 の II - II 線に沿う断面図である。

【図 3】

カーテンエアバッグの展開挙動を示す斜視図である。

【図 4】

本発明の別の実施の形態に係るカーテンエアバッグのガイド部材の上部付近の斜視図である。

【図 5】

別の実施の形態を示す斜視図である。

【図 6】

さらに別の実施の形態を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1 カーテンエアバッグ
- 2 ルーフサイド部
- 7 C ピラー
- 8, 8 A, 8 B, 8 B' ガイド部材
- 9, 9 B ガイド部

9 a 係留部

1 0, 1 1 固定部

1 2, 1 3 仮留め部

2 3, 2 4 仮留め部差込用開口

2 5 鉤状部

3 0 仮留め部材

3 1 クリップ部

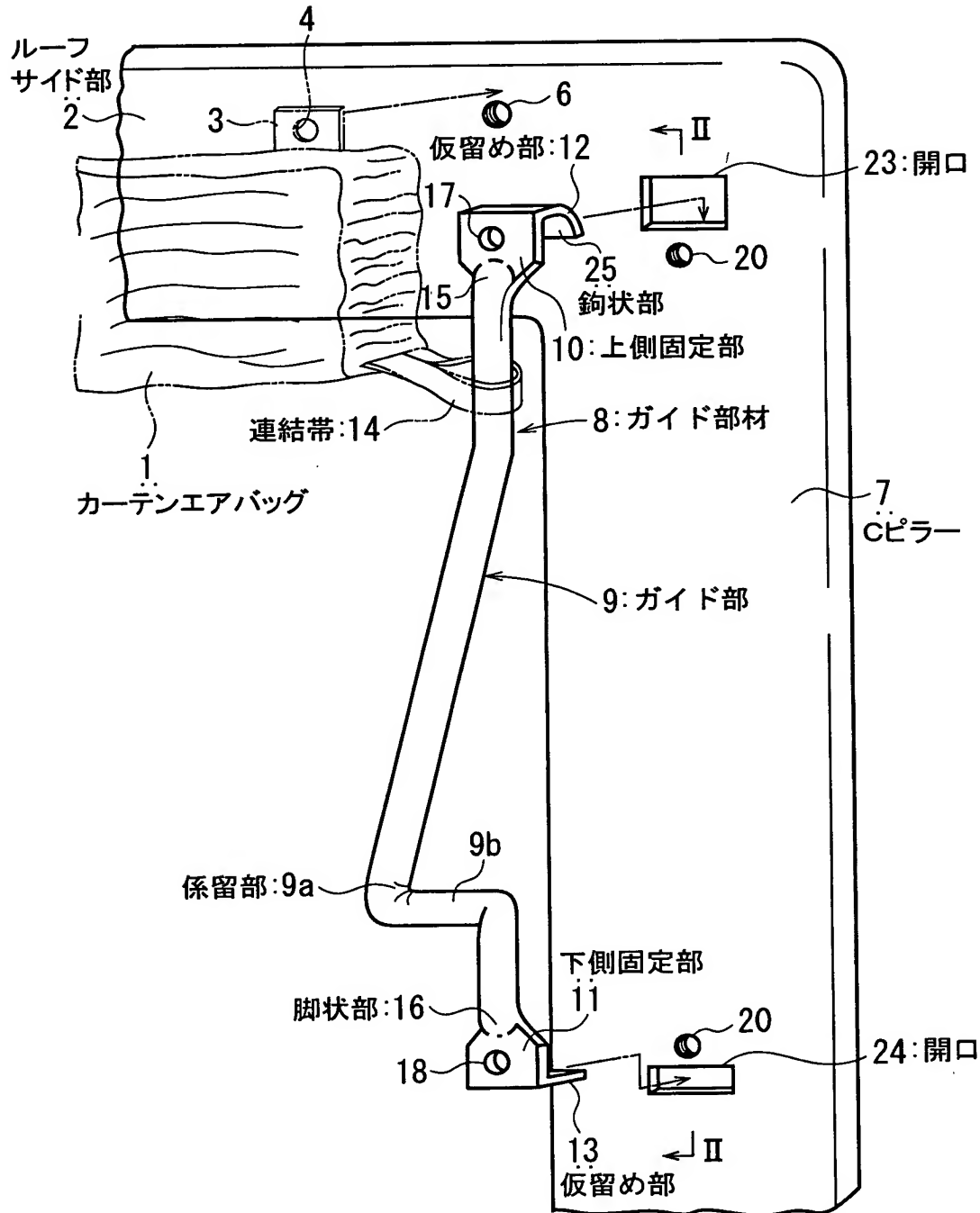
3 3 仮留め部

4 0, 4 1 係留部

【書類名】 図面

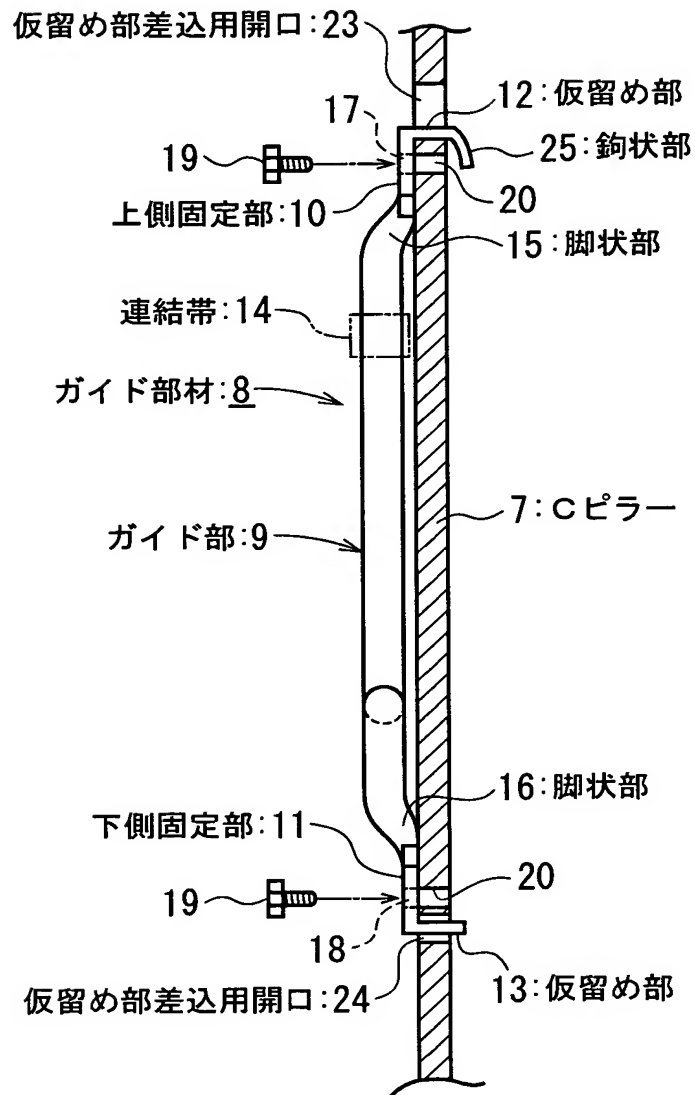
【図 1】

第1図



【図 2】

第2図



【図 3】

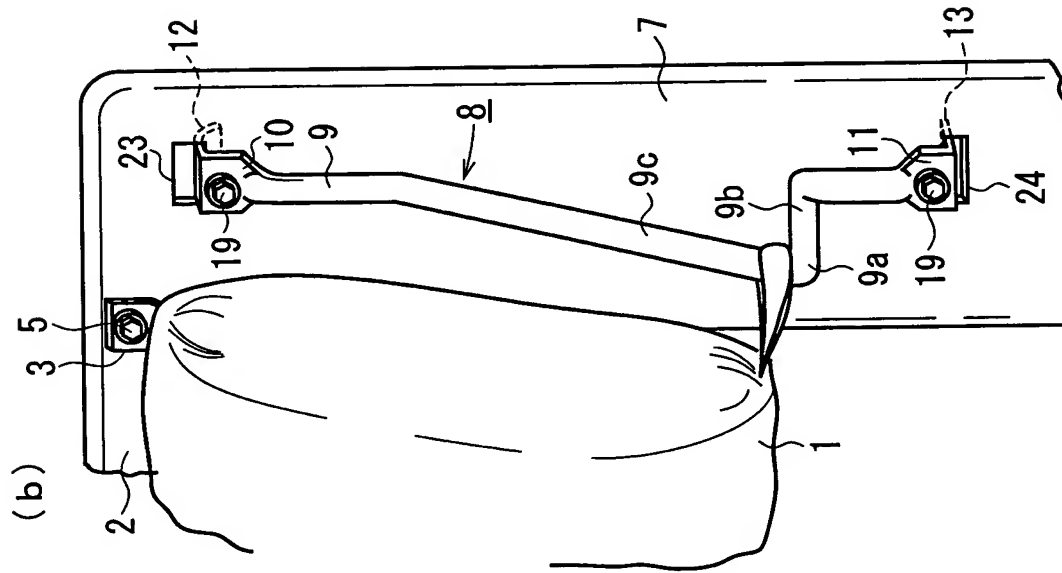
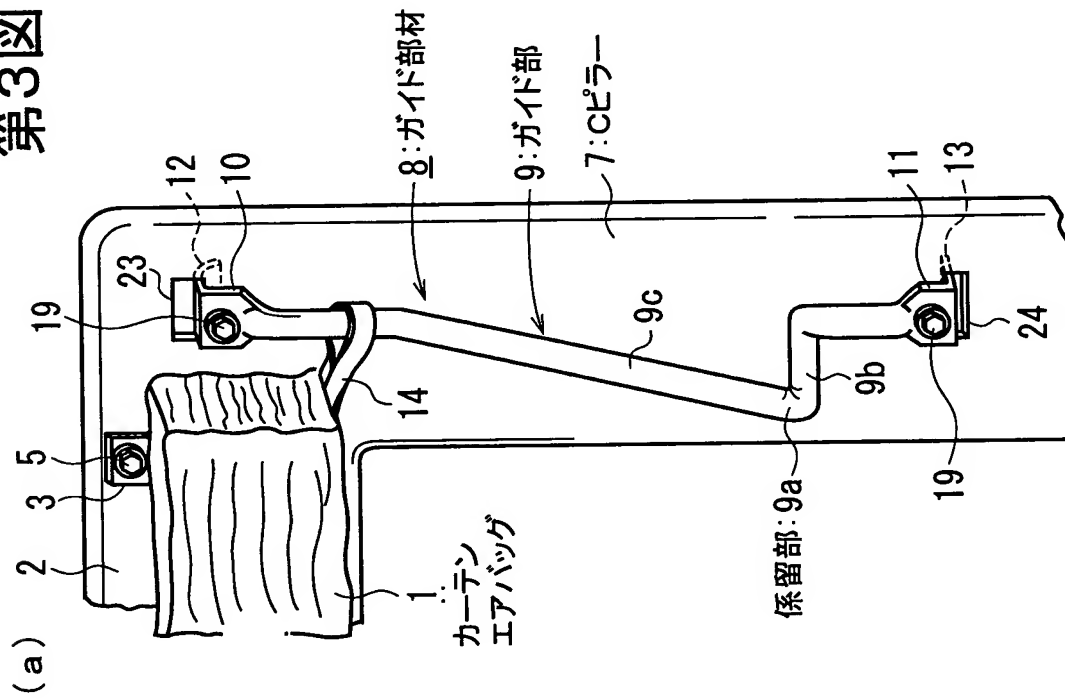
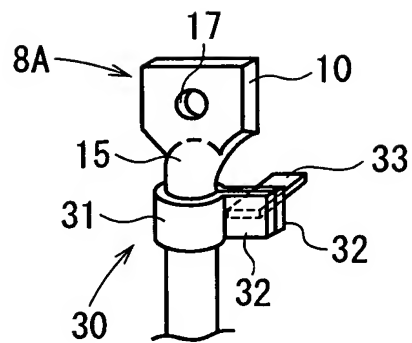


図
3
概



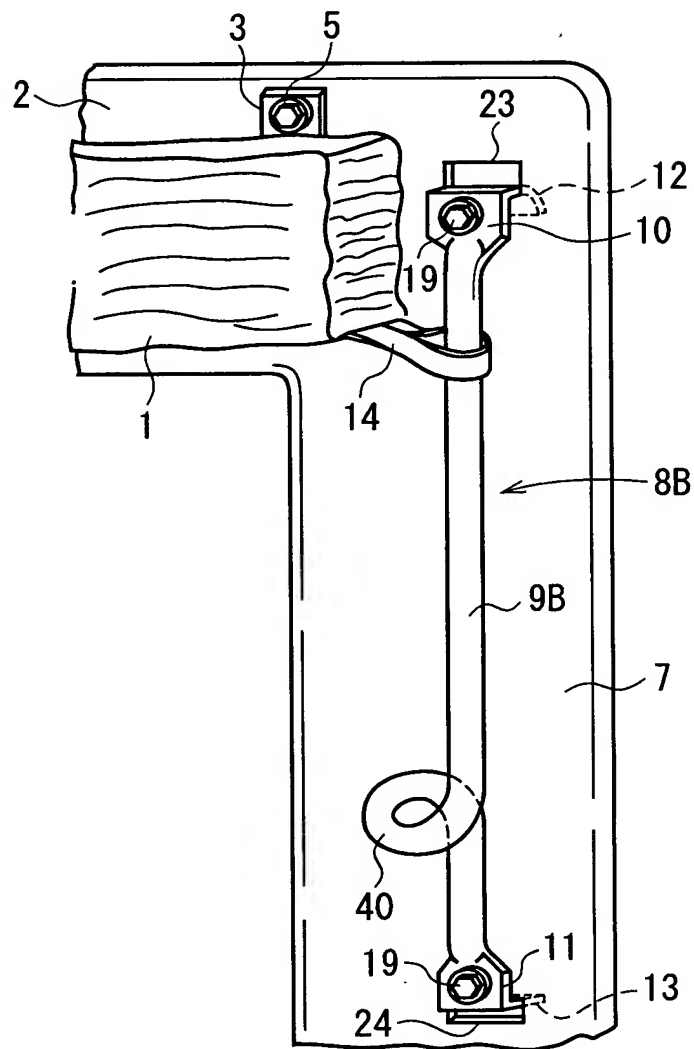
【図4】

第4図



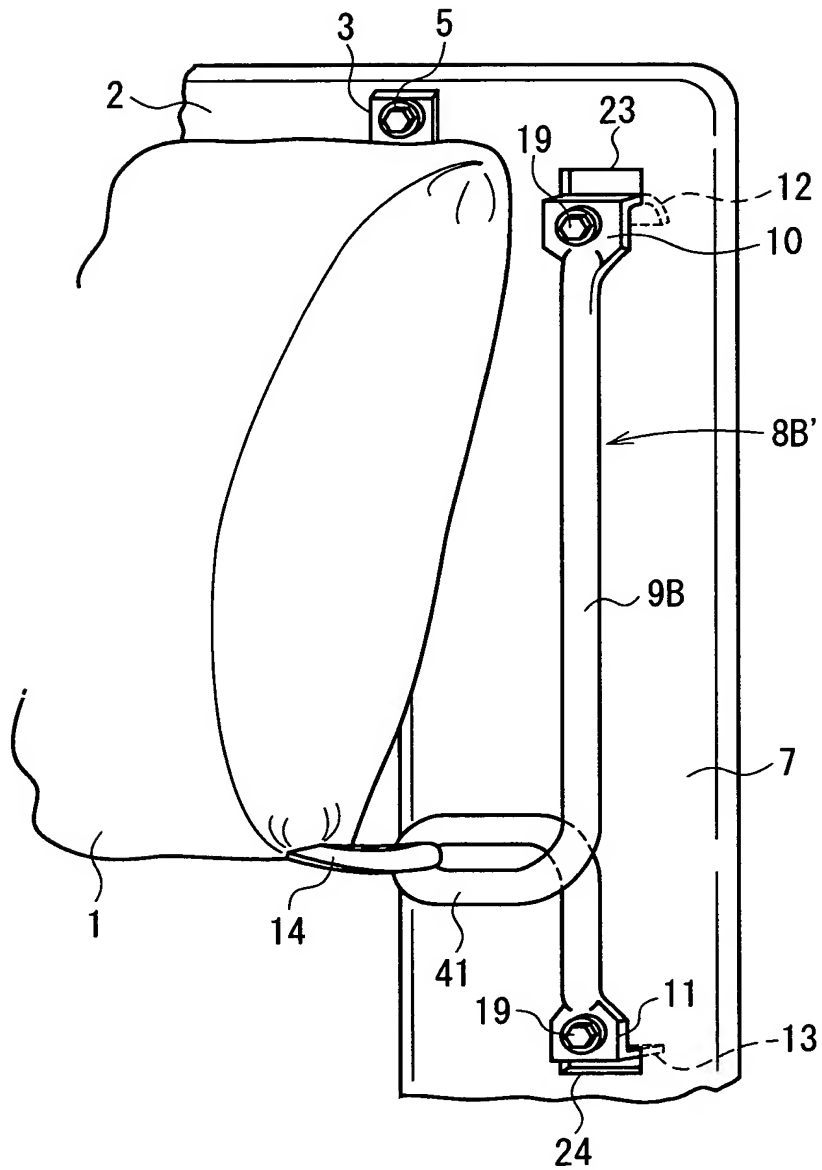
【図5】

第5図



【図 6】

第6図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 車体への取付作業性に著しく優れたカーテンエアバッグのガイド部材を提供する。

【解決手段】 ガイド部材 8 は、Cピラー 7 に沿って車体上下方向に延在する棒状のガイド部 9 と、該ガイド部 9 の上下両端部をそれぞれ該Cピラー 7 に固定するための上側及び下側固定部 1 0, 1 1 と、このガイド部材 8 をCピラー 7 に取り付ける際に該上側及び下側の両固定部 1 0, 1 1 をそれぞれ該Cピラー 7 に仮留めするための仮留め部 1 2, 1 3 とを有している。Cピラー 7 には、これらの仮留め部 1 2, 1 3 と対応する仮留め部差込用開口 2 3, 2 4 が設けられている。ガイド部材 8 をCピラー 7 に取り付けるに当り、各仮留め部 1 2, 1 3 を対応する仮留め部差込用開口 2 3, 2 4 に差込んで係合させることにより、該ガイド部材 8 をCピラー 7 に仮留めしておくことができる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 2 1 2 6 9 3
受付番号	5 0 2 0 1 0 7 3 4 1 8
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0 0 9 3
作成日	平成 1 4 年 7 月 2 3 日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年 7月22日

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000108591]

1. 変更年月日 1990年 8月 7日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区六本木1丁目4番30号
氏 名 タカタ株式会社